



台風たいふうのとき、とつぜんあめ雨が降ふったりやんだりするのは、なぜ

雲くもができたり、消きえたりしている

台風たいふうは、上うへから見ると丸い形みまるかたちをした、雲くものうずまきになっています。その直径ちよっけいは500～600キロメートルぐらいです。小さいもので200～300キロメートル、大きなものは1000キロメートル以上いじょうにもなります。

台風たいふうの雲くもはうずまきになっていますが、雲くもの所々ところどころでは、雨あめを降ふらせる雲くもが新あたしくできたり、消きえたりしています。新あたしい雲くもは、数十分すうじゅうぶんから1時間じかんぐらいで、次つぎから次つぎへとでき、また、消きえていきます。

台風たいふうの目めの中なかはほとんど雲くもがない

台風たいふうの中心ちゅうしんでは風かぜが弱よわく、雲くもはほとんどありません。これを台風たいふうの目めとっています。台風たいふうの目めの大きさは、ふつう、直径ちよっけいが20～50キロメートルぐらいです。

台風たいふうの雲くもの一部いちぶは、新あたしくできたり、消きえたりしているので、上空じょうくうには雲くもがとぎれる所ところができます。

台風たいふうの激はげしい雨あめを降ふらせる雲くもは、積乱雲せきらんうんです。上空じょうくうが積乱雲せきらんうんでおおわれているときには強つよい風かぜがふき、激はげしい雨あめが降ふります。雲くもがとぎれている所ところや、台風たいふうの目めの中なかに入はいっているときは、とつぜんあめ雨がやんだりします。(監修・村山 貢司)

